



美谷 芳昭

町民に夢と希望を与える施策について

問 本町を取巻く現状は、少子高齢化の進展、人口の減少や、財政面も町税等の減収傾向で益々厳しい状況となっており、最近、将来の不安も伴って地域の活力が低下し、住民も元気が失われているように思える。

答 このような厳しい状況ではあるが、こんな時代だからこそ町民が夢と希望を持てるよう、限りある予算や資源を活かし、創意工夫して施策を立てるべきだと考える。

そこで、先ず一つの施策として、現在開催されている秋のイベント類を整理して

新たに「大阪のてっぺんの町イベント」を開催すればどうか。

答 秋に集中するイベントについては、それぞれ開催意義があるが、今回発展的に見直す時期に来ていると認識している。来年は例えば「てっぺん祭り」的なイベントを再

構築したいと考えている。

問 能勢町の農林業を振興して夢と希望を与えるために、能勢の気候や風土を生かし、能勢の農業が今後生き残りを図るためにも特産品の開発が急務ではないか。

また、林業振興策は、企業の社会貢献の一環としての森作り「アドプトフォレスト制度」を、活用して能勢の山林整備をしてはどうか。

答 これまで、能勢の銀寄粟に続く特産品の開発を町独自に検討してきたが、更に、能勢の風土に適した産物の開発を、府の農林部に依頼しているところである。

「アドプトフォレスト制度」の導入については、区長会や各財産区に説明をしており、前向きに導入して林業の再生に積極的に取り組んでいきたい。

問 今後学校再編を推し進めるならば、新しい学校は、同一敷地内一体型の小中一貫校とし、また校長等は民間人を採用するなど、斬新的かつ、特色ある教育内容として、本町の子どもたちが未来に向かつて羽ばたき、大きな夢を持たせるべきだと考えるが見解は。

答 新しい小・中学校は、同一敷地内に建設を予定しており、純粋の一貫校ではないが、連携型の一貫校的な教育をしたいと考えている。

管理職等の民間人の採用については、官民を問わず、幅広い人材の登用を視野に入れるなどして、特色のある学校づくりを目指し、学校経営、教育内容等については時代に即した、誰もが再編して良かったと思ってもらえるような学校を創出して

いきたい。

一般質問



岡本 榮三郎

一、第4期能勢町高齢者保健福祉計画並びに能勢町介護保険事業計画について
二、福祉、保健、医療、高齢者、介護等について

第4期能勢町高齢者保健福祉計画並びに能勢町介護保険事業計画について

問 急激に経済成長をした国家は高齢化率が高くなると言われていますが、加速を増す日本の高齢化社会を今後どのようにして日本は乗り越えていくの

の

の

の

の

の

安心して暮らし続けていけるためにも、わかりやすい大きな字で、また絵なども取り入れて理解しやすい冊子を作成し全世帯に毎年配付を願いたいと考えを問う。

答 制度や状況、計画等を何らかの形でわかりやすくお伝えする方法を早急に見出していきたい。

問 高齢者及び介護に関する「失業状態」にある在宅または入院中の必要な方を対象に「紙おむつ」の購入支援事業を創設できないか。

答 第5次計画の中で実施について検討をする。

問 女性特有の「子宮頸がん」ワクチンの公費助成を中一から高三まででできないか。

答 中一から高一までを無償といたします。

問 感染症対策として小児用肺炎球菌ワクチンとヒブワクチンの助成を5歳未満の乳幼児を対象にまた高齢者の肺炎球菌ワクチンの公費助成を。

答 肺炎球菌とヒブワクチンの接種については、5歳未満まで全額公費負担にします。

問 国保の被保険者証を世帯一枚の連名式から個人カード化にできないか。

答 社会保障カードの動向を見きわめて、実施の時期を検討していきたい。

